

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 本校の校訓である「人格の陶冶」を実現すべく、「自立した社会人、地域に信頼され、期待される社会人」の育成をめざす。そのために夜間定時制、工科高校総合学科の柔軟な教育課程の特性と地域の教育力を活かして、以下の教育を行う。
- 1 「ものづくり」を核に据え、基本的な知識・技能の定着を図りつつ、各種資格取得に挑戦させ自己実現へと導く。
 - 2 「働きながら学ぶ」ことを大切にして、基本的生活習慣、社会規範の確立及び自らの進路実現に向け積極的に取り組む態度を育てる。
 - 3 教育活動全体を通して、教員と生徒が互いに信頼関係を築き、生徒の状況を的確に把握し、個々の能力や適性に応じた教育活動を行う。
 - 4 地域と連携し、地域の教育力を最大限に活かした教育活動を通して、社会の中で生きる自信と豊かな心を養う。

2 中期的目標

- 1 「自立した社会人」としての資質・能力の育成
 - (1) 生徒の規範意識の醸成
 - ア 社会人としての「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力」を涵養し、社会人としての規範意識を醸成する。
 - (2) 「わかる授業」による基礎学力の育成
 - ア 参加型・対話型の内容を多く取り入れた授業展開や、プロジェクター等 ICT 機器を活用し視覚情報を増やすことで、生徒の顔があがりやりとりの多い参加型の授業に取り組む。また、1 人 1 台端末が教育活動で活用され、生徒にとってわかりやすい授業となるように、ICT 環境を整備するとともに、ICT を活用した授業実践に向けた教員研修や好事例の共有などに取り組む。その成果を公開授業、研究授業等で検証していく。
※生徒向け学校教育自己診断：「授業はわかりやすく楽しい」「教え方を工夫している先生が多い」の平均が、令和 9 年度に肯定値 80%を維持している。
(R4 80.1%、R5 95.6% R6 86.1%)
 - イ 技能講習や資格検定等を見通した学びを通じて、生徒の自己実現への意識を高め、ICT 活用能力の向上を図る。
※各種資格および検定の延べ合格者数が、令和 9 年度に 30 名を維持している。(R4 28 名、R5 37 名、R6 45 名)
 - (3) 夢と志を持つ生徒の育成
 - ア 問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力を育て、社会人としての資質や能力を確実に身につけるよう育成する。
※「総合的な探究の時間」におけるキャリア教育、人権教育を通じて、生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集や整理、分析を進める能力を高める。
 - イ 「働きながら学ぶ」ことを通じて学校生活や社会生活への適応を図り、進路実現につなげる。
※学校斡旋就職希望者の内定率が、令和 9 年度に 100%を維持している。(R4 100%、R5 100% R6 100%)
アルバイト等の就労体験率が、令和 9 年度に 90%を超えている。(R4 85%、R5 86%、R6 90%)
- 2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化
 - (1) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実
 - ア 担任、支援教育コーディネータ、教育相談、養護教諭等、連携を密にしてワンチームとして生徒の特性に応じた学習指導、生徒指導を行う。
※少人数で手厚く指導できる授業環境を教職員の協働により確保し、カウンセリングマインドを発揮し、個々の生徒に応じた支援を組織的に実践する。
生徒向け学校教育自己診断：「学校生活についての先生の指導は理解できる」令和 9 年度に肯定値 80%を維持している。
(R4 75.4%、R5 94.6%、R6 94.1%)
 - イ 課題を抱える生徒や、発達障がいを含めた障がいのある生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした指導・支援の充実を図る。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、福祉・医療関係人材及び関係機関との連携を深め、多角的な視点で生徒を支援していく。
※生徒向け学校教育自己診断：「先生は自分たちの話をよく聞いてくれる」、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の平均が、令和 9 年度に肯定値 80%を維持している。(R4 81.8%、R5 91.1%、R6 92.6%)
 - (2) 特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒に「自己有用感」を醸成する。
 - ア 生徒会行事、生徒の自主的活動、ボランティア活動や地域連携事業の継続と発展をめざす。
〔ボランティア活動、地域連携事業〕
これまで続けてきた被災地支援をベースに、生徒がボランティア活動に参加することで、コミュニケーションの能力を身につけ、他者から感謝され自己有用感を高める。同時に、全国で定時制高校のモデル校をめざし定時制高校の存在意義をこれまで以上に高める。
 - イ 部活動では、生徒のバランスのとれた心身の成長を促すよう心がける。ルール、礼儀、マナーを学ぶことで、自己を大切にし、他者を尊重できる姿勢を育成する。目標設定による自己達成感とふり返りにより主体的に取り組む力を育み、集団や学校への帰属意識を高める。
※部活動加入率が、令和 9 年度に 65%を維持している。(R4 67.2%、R5 76.1%、R6 61.2%)
定通全国大会への出場、近畿レベル以上の各種大会やイベントでの入賞をめざす。
- 3 安全、安心で魅力ある開かれた学校づくり
 - (1) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができる環境整備
 - ア 「自他のいのちを大切にする心」や自尊感情を育てるために発達段階に応じた学習を行う。SNS 上でのいじめやトラブルの生起、ネットワーク上で有害情報が発信される等の現状を踏まえ、情報の取扱い、とりわけ情報を発信する際の基礎的な資質能力を育成し、生徒が被害者にも加害者にもならないよう、互いを大切に思うこと（リスペクトの精神）の重要さを教えていく。
※生徒向け学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」令和 9 年度に肯定値 80%を維持している。
(R4 77.2%、R5 94.5%、R6 92.2%)
 - イ 防災教育など自然災害を想定した実践的な防災行事を地域と共に行い、「自助・共助・公助」の基盤を作る。
 - (2) 教育活動の積極的な情報発信
 - ア 准校長ブログをはじめ、情報発信を頻繁に行い、広報につなげる。
 - イ 中学生、保護者、地域に対して、必要な情報をタイムリーに提供する。
※地域連携事業を積極的に継続して、本校の取り組みを発信し続ける。
- 4 学校組織力向上と教職員の資質向上
 - (1) 学校組織力向上
 - ア 教員としての本来の職務を遂行するためには、教員間の学び合いや支え合い、協働する力が重要である。学びの共同体としての学校の機能が十分発揮された同僚性の高い職場をめざす。
 - イ いじめ・虐待等の生徒指導事象や災害等の危機管理事案に対して、適切に対応できる組織となっているか、常に見直しを図る。
 - (2) 教職員の資質向上
 - ア 社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員を組織的・継続的に育成する。とりわけ、教職員の人権研修を充実させ、すべての教職員が自らの人権感覚を高めるとともに、人権意識を見つめ直す機会とする。生徒が信頼して安心できる学校づくりを推進する。
 - イ 日常的な OJT の推進、校内研修の活性化を行う。
 - ウ 働き方改革に関する取組みとして、「全校一斉定時退庁日」、「ノークラブデー」、「学校閉庁日」を実施する。ICT を活用した校務運営の効率化を図り、会議などの業務内容を合理化する。勤務時間管理及び健康管理を徹底するとともに、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。
 - エ 個人情報の取扱いに対する教職員の意識を高め、適正な取扱いができるよう、個人情報の管理のためのルールの徹底を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和８年１月実施分〕	学校運営協議会からの意見
① 学校教育全般について 生徒の「学校へ行くのは楽しい。」の肯定値は 72.7%と 2.1pt 上昇したものの、保護者の肯定値は 66.7%と 8.3pt 減少した。生徒にとっては学校行事の工夫や居場所事業などていねいな生徒支援などに取り組んでいる成果があらわれていると思われる。同時に、給食の継続を維持しながら、生徒に対して働きながら学ぶ姿勢の育成や、ものづくりを核にし、資格取得が可能なカリキュラムを携え、各授業において教え方を工夫している成果があらわれていると考えられる。一方で、授業参観を実施するなど保護者の理解を高める取組みを進めているが結果にはつなげていない。更なる工夫が必要となっている。 ② 学校安全について 生徒の「人権の大切さについて学ぶ機会が多い。」の肯定値が 95.3%、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い。」の肯定値が 97.7%、「学校で地震や火災などの災害がおこった場合、どのような行動をとればよいか具体的に知らされている。」の肯定値が 93.2%となっており、いずれも前年度より 5.0pt 以上上昇している。地域と連携した講演や講話を含め、日ごろの指導及び支援の成果があらわれている。また、生徒の「先生は他の人に知られたくない秘密を守ってくれる。」の肯定値が 95.5%、「成績などの内容についてプライバシーが守られている。」の肯定値が 97.7%と高く、また保護者の肯定値においていずれも 90.0%を超えており、保護者からの信頼も厚く、生徒が安心して過ごせる環境を構築できている。今後も継続していきたい。 ③ 生徒指導について 生徒の「先生は自分たちの話をよく聞いてくれる。」の肯定値が 93.2%、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」の肯定値が 97.7%、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。」の肯定値が 95.5%と高い結果となっており、各教職員が個に応じた支援と指導を行うとともに、カウンセリングマインドを備えた寄り添う指導もしっかりと行えていることがわかる。また、生徒の「先生はいろいろな問題を見逃さず、対応してくれる。」の肯定値も 95.3%と非常に高く、「学校生活についての先生の指導は理解できる。」の肯定値 97.7%につながっていることがわかる。保護者の「学校の生徒指導の方針に共感できる。」の肯定値も 91.7%と高く、保護者の理解も得られている。 ④ 授業関係について 生徒の「授業はわかりやすく楽しい。」の肯定値が 95.5%、「教え方を工夫している先生が多い。」の肯定値が 95.5%と非常に高く、教職員の取組みが生徒の評価に現れていると思われる。また、「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会が多い。」の肯定値が 97.7%、「学校は、１人１台端末を効果的に活用している。」の肯定値が 88.6%と高く、各授業において、しっかりと活用している様子が伺える。「自分にあった科目を選択できる。」の肯定値も 90.9%と高い。 ⑤ 自立自己実現について 「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定値が 97.7%、「学校は、進路について各学年に応じた指導をしている。」の肯定値が 97.7% と、ともに高い数値であり、保護者の肯定値も、91.7%となっており、生徒の自立自己実現のために、すべての教職員がしっかりとした進路指導を行い、さらに生徒がそれに応えてくれた成果があらわれていると思われる。 ⑥ 行事・特別活動について 「学校行事(遠足、球技大会、文化祭)は、みんなが楽しく行えるように工夫されている。」の肯定値が 95.5%と高く、「部活動に積極的に取り組んでいる。」の肯定値が 40.9%であり、加入生徒（50.5%）の 81.0%が積極的に取り組んでいることがわかる。	第１回（令和７年６月１２日実施） ○昔から授業を担当しており、本校の生徒の様子や学校の様子もよくわかっている。最近は、自信をしっかりと身につけることができている生徒が増えてきていると感じている。このまま本校のよい取組みの一つとして、生徒にしっかりとした自信が芽生えるような指導を継続していただきたい。 ○本校の学校経営計画の説明の中で、資格や検定に挑戦し、それらを取得できるよう指導されていることがよくわかった。このまま本校のよい取組みの一つとして継続していただきたい。 ○本校の取組みの一つとして給食指導があるが、給食指導を行うことで学校の落ち着きにもつながっていると感じている。HR や諸連絡の機会としても活用しているとのことで、非常によい取組みだと感じている。このまま給食指導を続けていってもらい、さらによい学校づくりをめざしていただきたい。 ○本校は退学者も少なく、教職員と生徒との関係性が非常によいと聞いている。このまま各々の生徒に合った指導を継続していただきたい。 ○今年度は分掌長が大きく変わった年だと思うが、大きな変化を大きなチャンスとして受け止め、学校が大きく飛躍するきっかけにしていきたい。 第２回（令和７年１１月１４日実施） ○教科書のデジタル化について世の中的にもどんどん進んでいっているので、本校でも可能な限り取り入れることで、生徒の授業に対する取組み及び理解度等をより高める方向に持って行っていただければと思う。 ○本年度、新たな取組みとして津波を想定した避難訓練を実施したことは、非常に有意義かつ効果的な素晴らしい内容だと感じた。今後も大変だとは思いますが生徒のためになる新たな取組みを考え、どんどん取り入れて行ってほしいと思う。 ○日本語指導が必要な生徒が増えてきているということで、そういった生徒のためにも講師を含め日本語指導を行うことができる教員の配置をより充実させていただければと思う。 ○ICT 機器を活用した授業を積極的に行っているということで、授業アンケート等にも結果で出ているようで本校に対する信頼がより増した。今後はさらに１人１台端末等も有効に活用していただき、生徒にとって授業がよりわかりやすく、かつ、充実した内容になるよう努めていただければと思う。 第３回（令和８年２月２５日実施） ○地域との連携や近隣中学校との連携がしっかりと取れており、安心して生徒を送り出すことができている。資格取得等も充実しており、卒業後の進路についても就職や進学につながるようしっかりと指導しており、心強いと感じている。生徒に対して、今後も更なる自立自己実現を促す道を繋げて行ってほしい。 ○授業を担当する中で、生徒一人ひとりの成長がめざましく、誰もが真剣に取り組み、自分自身も楽しんで取り組ませていただいている。今後も充実したカリキュラムとなるよう、学校側も創意工夫に努めてほしい。

府立堺工科高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 「自立した社会人」 としての資質・能力の育成	(1) 規範意識の醸成 ア 社会人としての規範意識を身につけさせる。	(1) ア・家庭と連携して基本的生活習慣を確立させるとともに、授業や行事で社会人として求められるルールやマナーの重要性を理解させ、規範意識を育む。 ・生徒指導事案は生徒指導部と支援教育委員会が連携して、組織的に対応する。	(1) ア・遅刻者数前年度比減。 [3074 件] 学校教育自己診断(保護者)「生徒指導の方針に共感できる」の肯定値 80%を維持する。[100%] ・懲戒件数を 10 件以内とする。[2 件]	(1) ア・基本的生活習慣を確立させるとともに、社会人として求められるルールやマナーの重要性を理解させたことで、規範意識を育むことができた。 遅刻者数[3, 239 件] (○) 肯定値[91.7%] (◎) R 6 : 3, 074 件/106 人=29.0 件/人 R 7 : 3, 239 件/113 人=28.7 件/人 ・今年度は支援教育委員会と連携しなければならない事象は生じなかった。懲戒件数[4 件] (◎)
	(2) 「わかる授業」による基礎学力の育成 ア 参加型・対話型を取り入れた授業の推進	(2) ア 授業アンケートの活用、管理職の授業見学と助言。教員が相互に授業を見学し、公開授業や研究授業を開催する。	(2) ア 学校教育自己診断(生徒)「授業に関する設問」の肯定値 80%以上を維持する。[86.1%]	(2) ア 授業アンケート結果の活用や授業見学、公開授業や研究授業を開催するなど授業改善への取組みを推進した。肯定値[95.5%] (◎)
	イ 技能・資格検定を見通した学び	イ 技能検定を見通した教育課程の工夫と、各種資格・検定の校内受験や講習の実施により、受験しやすい環境づくりに努め、自己実現への意識づけを行う。	イ 各種資格・検定の校内受験・講習の実施。 合格者 30 人以上。[45 人]	イ 一部の講習は取り止めたものの、各種資格の取得や検定合格のため、教員が一丸となって環境づくりを行い、生徒の自己実現の支援に努めた。 合格者[5 人] (△)
	(3) 夢と志を持つ生徒の育成	(3) ・探究学習を通じて 1 年次から進路実現に向けた啓発を行い、進路指導部、支援教育委員会、ハローワーク等と担任が連携して就労体験を支援し就労意欲や社会貢献意識を育む。 ・生活のリズムを整え、給食をとり、働きながら学ぶ態度を身につけ、3 年次では進路指導部を中心に全職員の支援を受け、進路希望を実現する。 ・ものづくりの専門技能を有する伝統工芸士の方を講師に招き、学校設定科目「堺学(包丁、線香づくり)」を開講する。	(3) ・学校教育自己診断(生徒)「進路に関する設問」の肯定値 80%を維持する。 [94.1%] ・アルバイト等の就労体験率 90%[90%]、就職内定率 100%[100%]を維持する。 ・堺学を後期から開講する。	(3) ・1 年次から進路実現に向けて計画的・系統的に啓発活動等を実践してきたことで、就労意識や社会貢献意識を育めた。 肯定値[97.7%] (◎) ・進路指導部が中心となり、3 年次生徒の支援を全職員で行った。 就労体験率[90.0%] (○) 就職内定率[100.0%] (◎) ・伝統工芸士による講座を通して、将来の夢を抱かせるとともにのづくりの志を高めさせた。 [堺学 2 講座を開講] (◎)
2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化	(1) 個々の教育的ニーズに応じた支援の充実	(1) ア 支援教育委員会を定期的に開催し、支援を必要とする生徒が抱える課題の情報集約やその指導方針の共通理解を図り、進路実現につなげる。	(1) ア 中途退学者 10%以内。 [5.7%] 学校教育自己診断(生徒)「学校生活について先生の指導は理解できる」の肯定値 80%以上を維持する。[94.1%]	(1) ア 外部専門機関等と連携しながら支援教育委員会を定期的に開催し、支援を必要とする生徒が抱える課題の情報集約やその指導方針の共通理解を図り、進路実現につなげた。 中途退学率[1.8%] (◎) 肯定値[97.7%] (◎)
	(2) 生徒の自己有用感の醸成	イ 個別の生徒支援に取り組み、事案においてもその背景も見定めたうえで適切な支援・指導を行う。専門人材(SC,SSW)や居場所事業と連携し、相談体制の充実を図る。	イ 学校教育自己診断(生徒)「生徒支援に関する設問」の肯定値 80%以上を維持する。[92.6%]	イ 専門人材(SC,SSW)と連携した支援教育委員会の運営を心がけ、個別最適な生徒支援に取り組むとともに、相談体制の充実を図った。 肯定値[95.5%] (◎)
		(2) ア 生徒会活動を活性化する。	(2) ア 部活動加入率 65%以上をめざす。[62.1%]	(2) ア クラブ活動推進週間を設定するなど加入率向上への取組みを図った。加入率[50.5%] (△)
		イ 部活動やボランティア活動、校外美化活動等を活性化する。	イ 近畿レベル以上の各種大会やイベントに大阪を代表して参加する。	イ 加入率が低下する中、軟式野球部が単独チームで大会参加するなど特定の部活動ではあるが活性化した。校外美化活動等も実施した。(◎)
		ウ 地域企業等と連携した職業体験や地域イベントへの参加を通じ、生徒の勤労観、コミュニケーション力を高め、進路実現を支援する。	ウ 職業体験や地域イベントに参加する。	ウ 1・2 年生を対象に地域企業等と連携した職業体験等への参加を通じて、生徒の勤労観を養い、コミュニケーション力を高め、進路実現を支援した。(◎)

府立堺工科高等学校 定時制の課程

3 安全、 安心で魅力ある開かれた学校づくり	(1)安全で安心して学校生活を送るための環境整備	(1) ア いじめのない学校づくり、SNS 上でのいじめやトラブルに関する啓発を行い、見守りと迅速な対応を組織で取り組む。また、いのちの大切さを学び、様々な人権問題の解決をめざした教育を人権教育として総合的に推進する。 イ 様々な自然災害を想定した防災訓練を行い、「防災」「減災」の意識を高め、「自助・共助・公助」の基盤を作り、災害に備えた危機管理体制の確立を図る。 また、地域や被災地と連携した防災活動にも継続して取り組む。	(1) ア 学校教育自己診断(生徒)「学校安全に関する設問」の肯定値 80%以上を維持する。[88.1%] イ 地域と連携し、防災訓練・防災会議を2回以上開催[2回]	(1) ア シッティングバレー体験、コミュニケーションゲーム、骨髄バンクドナー等の講演、がん教育、いのちの授業等を実施し、様々な人権問題の解決をめざした人権教育を総合的に推進した。 [95.5%] (◎) イ 地域公園事務所のご協力のもと、夜間定時制として津波警報発令及び津波注意ラインを想定した校外への避難訓練を実施し、生徒・教職員の防災意識の向上と危機管理体制の確立を図った。 [2回] (◎)
	(2)教育活動の積極的な情報発信	(2) ・中学生、保護者、地域に対して、教育情報、校内の活動、地域と連携した活動(堺学、被災地支援)等をタイムリーに伝える。 ・中学校への訪問、学校説明会や体験授業を実施し、適切な進路情報を提供する。	(2) ・各活動について、紙媒体と Web ページ等で情報発信する。 ・体験入学を2回実施、個別相談、個別見学と合わせて40名以上。[2回、37人]	・中学生、保護者、地域に対して、教育情報、校内の活動、地域と連携した活動等をタイムリーに伝えた。 ・学校説明会1回、体験入学2回実施し、適切な進路情報を提供した。本校理解の深化と進路選択の支援につなげた。[3回：60人] (◎)
4 学校組織力向上と教職員の資質向上	(1)学校組織力向上 ア 教職員が相互に資質を高めあう、同僚性の高い職場	(1) ア・1人1台端末を活用した協働的な学びの支援にプロジェクトチームを中心にして組織的に取り組み、好事例を共有する機会を設け、ICT 活用の活性化を図る。また、生徒が自己肯定感を獲得できる、地域連携事業をはじめとする取り組みが、次々と立案され実現できるような雰囲気をつくる。 ・OJT を推進し、教職員全体の指導力の向上に努める。公開授業週間を設定して授業交流を促進し、研究協議、定通校交流、他校見学等に取り組む。 ・経験年数の少ない教員に対し、教職員全員でOJT を心掛け、相互の気づきと資質の向上につなげる。	(1) ア・学校教育自己診断(教員)「教育活動について教員間で日常的に話し合っている」の肯定値が75%を超えている。[71.4%] ・公開授業週間を2回以上実施。[2回] ・メンターが経験年数の少ない教員と協働する機会の設定。 公開授業、定通交流、他校見学等、合計5回以上実施。[6回]	(1) ア・1人1台端末を活用した協働的な学びを推進するため、次期学習指導要領を見据えた生成AIを活用した授業の実践に取り組んだ。また、今年度よりICT担当、生徒支援委員会、学年団が連携した「遠隔授業」も実践し、組織的なICT機器活用の活性化につなげた。[100%] (◎) ・校内の公開授業週間や研究授業・協議、教員技能等向上研修、定通校交流等を設定し、授業交流の促進と教職員全体の授業力向上につなげた。 [2回] (○) ・定通3部合同研修や生徒秋季発表大会、校内の公開授業週間や研究授業・協議、教職員研修、体験入学、学校説明会等における校内外教員間の交流の機会を通して、相互の気づきと資質の向上につなげた。[12回] (◎)
	イ 組織的緊急対応 (2)教職員資質向上	イ いじめ・虐待等の生徒指導事象や災害等の危機管理事案に対して、全職員が迷いなく適切に対応できる組織となっているか、常に見直しを図る。 (2) ア 教職員の人権研修を充実させ、自らの人権感覚を高めるとともに、人権意識を見つめ直す機会とする。専門人材(SC、SSW)等と連携を図り、生徒の状況に応じた教育活動を推進するための理解を深める。 イ 経験年数の少ない教員を積極的に事業の長に登用するなど次代のミドルリーダーの育成を進める。 ウ「全校一斉定時退庁日」「ノークラブデー」「学校閉庁日」の取り組みを行うとともに、校務においてICTを活用し、学校運営の効率化を図る。学校行事や会議などの業務内容を見直して負担軽減を図る。	イ 災害、犯罪等、緊急事案が生起した場合を想定し、オンライン等による情報伝達を確実に行う。防災訓練時に実施する。 (2) ア 人権研修を含めた職員研修を2回以上実施する。[2回] イ 経験年数の少ない教員がリーダーとなるプロジェクトを1回以上実施。[1回] ウ 時間外勤務月80時間以上の職員がでないよう、校務運営の効率化を図り、業務の平準化をめざす。[80時間超0名]	イ 生徒への声かけや見守りを充実させ、個別の生徒支援に取り組み、事案においてもその背景を見定めたうえで、生徒にとって最適な支援・指導の方向性を共有・実践した。また、学校支援クラウドサービスを生徒の日々の連絡や職員の双方向連絡等に活用し、緊急時にオンラインによる確実な情報伝達ができる体制を整えている。(○) (2) ア 地域の人権センターの協力のもと講義とフィールドワークによる同和研修を実施し、人権感覚・意識の向上を図った。また、SSWSVによる研修を行い、学校を取り巻く関係機関の役割と連携の取り方についての理解を深めた。[2回] (◎) イ 経験年数の少ない教員が、総合学習等の運営に参画し企画を遂行する機会を設けた。[1回] (○) ウ 1人1台端末等を積極的に活用して各種生徒アンケートを実施するなど、校務の効率化を図った。また、時間外勤務が月80時間超の職員は0名、平均45時間以上の職員も0名。(◎)